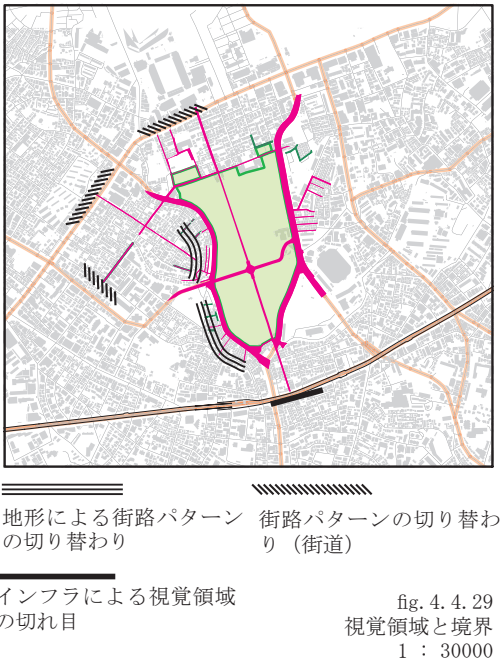
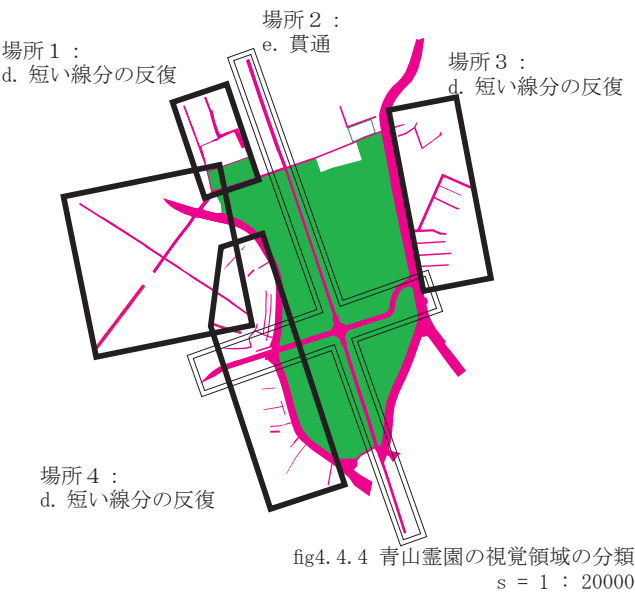


小括

青山霊園の視覚領域の境界をまとめると以下のようになる。

場所	視覚領域の類型	江戸期の土地利用	視覚領域の境界
1	d. 短い線分の反復	武家地	街路パターンの切り替わり (街道)
2	e. 貫通	武家氏	街路パターンの切り替わり (街道)、高速道路の高架(近代)
3	d. 短い線分の反復	武家屋敷の一部	規則性なし
4	d. 短い線分の反復	百姓地	地形による街路パターンの 変化
5	c. 長い線分の反復	武家地	なし

fig. 4. 4. 28
青山霊園の視覚領域の境界一覧



谷地と台地の地形変化による視覚領域の切れ目と、台地にある街道による視覚領域の切れ目と二重の境界がある。北側では、地形の変化がなく霊園と周辺都市が繋がっている。

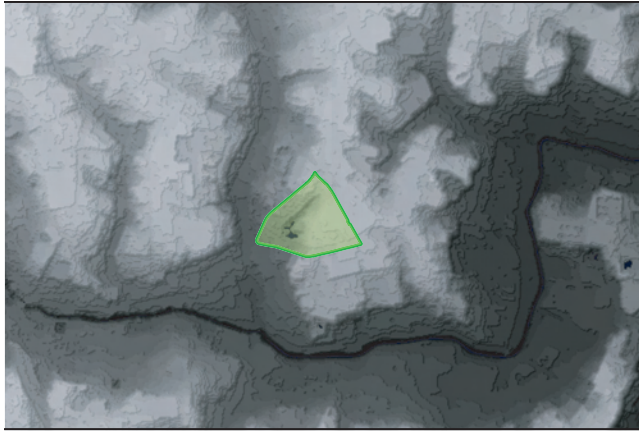


fig. 4.5.1 有栖川公園と地形
1 : 25000

4.5 有栖川公園

■地形との関係

公園は周りを谷に囲まれた小さな丘の斜面に位置しており、尾根から谷までを占めている。



fig. 4.5.2 江戸時代の有栖川公園周辺
1 : 25000

■江戸時代の有栖川周辺

現在の公園の形と同じ形をした武家屋敷があった。北側は尾根道が繋がっている。周辺は地形の切れ目をそのまま敷地境界にし、不整形な武家屋敷が配されている。

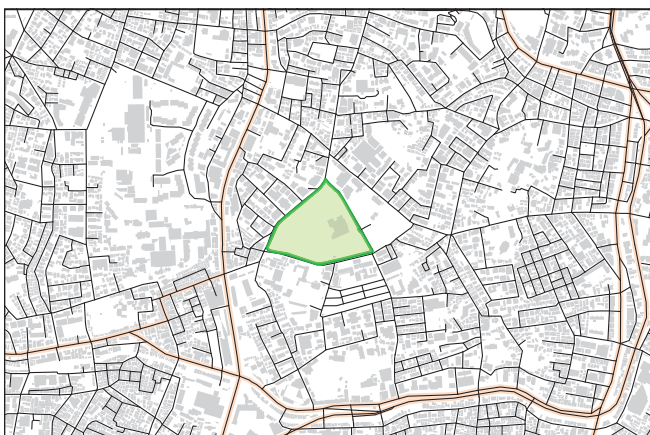
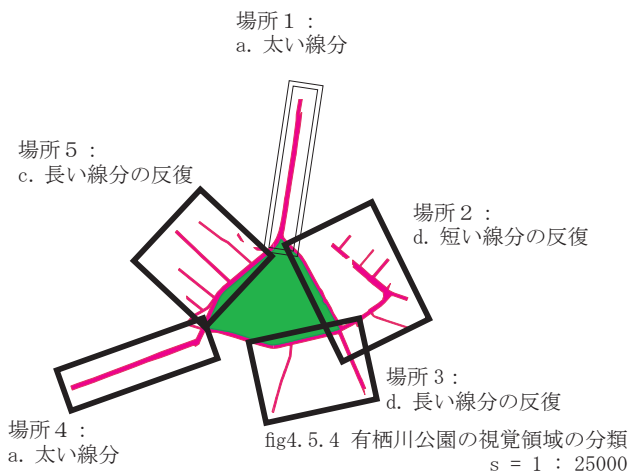


fig. 4.5.3 現在の有栖川公園周辺
1 : 25000

■現在の有栖川周辺

東側が運動場と病院として切り離された。街路パターンは土地が細分化され道が増えたが、骨格となるものは江戸期のものとまったく変わっていない。江戸時代の武家屋敷の大きな面積の土地利用がところどころに残っており、現在も大使館・大学院など大きなものが公園に隣接している。



■視覚領域の類型

有栖川公園の視覚領域は、右図のように分けられる。

場所1 : a. 太い線分

場所2 : d. 短い線分の反復

場所3 : a. 太い線分

場所4 : c. 長い線分の反復

○場所1 : a. 太い線分

分析A

街路パターンの切り替わり

江戸時代から尾根道として、この地域の骨格となる道路であった。別の尾根道と繋がる際に折れ曲がっている。

分析B

公園：植え込み

周辺：尾根道、住宅地

公園の側はこの道路に対して入り口を持たず、繋がりをもつための空間は作られていない。

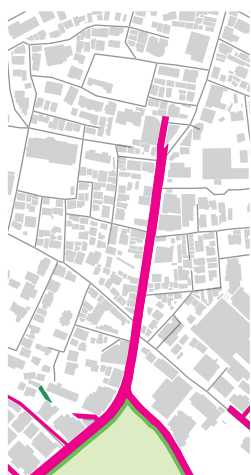
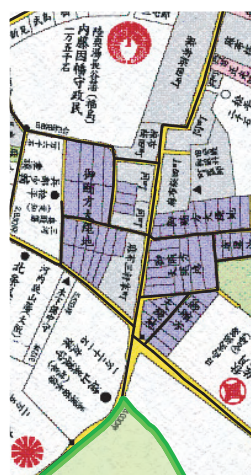


fig4. 5. 7 公園に向かう道からの緑の見える



fig4. 5. 10 公園に向かう道からの緑の見える



fig4. 5. 11 公園に接する道路

○場所2 : d. 短い線分の反復

分析A

規則性なし

武家屋敷を宅地に分割する際に出来た道路である。公園に隣接する運動場越しに、公園の緑が見える。

分析B 植え込み

周辺：歩道が広く取られる

公園に接する道路では、歩道が広めに取られ変化がつけられることで、歩きやすい道になっている。

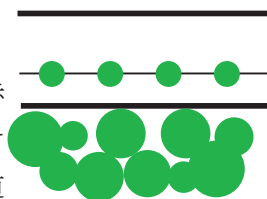


fig4. 5. 12 公園に面した道路の歩道を整備



fig4. 5. 13 江戸期と視覚領域
s = 1 : 15000



fig4. 5. 14 現在と視覚領域
s = 1 : 15000

○場所 3 : 長い線分の反復

分析 A

江戸期からある道による街路パターンの変化

分析 B

公園 : 塀

周辺 : 大使館

公園には大使館が面している。どちらも塀を立てていて繋がりはない。



fig4. 5. 15 公園に向かう道路
からの緑の見え



fig4. 5. 16
公園に面した道路



fig4. 5. 17 江戸期と視覚領域
s = 1 : 15000



fig4. 5. 18 現在と視覚領域
s = 1 : 15000

○場所 4 : a. 太い線分

分析 A

境界なし

江戸時代からある道で台地と谷地とを結ぶ道である。折れ曲がることなく続くが、電柱などにより公園は見えなくなる。

分析 B

公園 : 入り口、植え込み

周辺 : カフェなど商業分布

公園の近くに商業分布が多く、特に公園対して開けたカフェや雑貨店などが公園の環境を利用している。



fig4. 5. 19 公園に向かう道路
からの緑の見え



fig4. 5. 21 商業分布
s = 1 : 10000



fig4. 5. 20 公園に面した道路
にある雑貨店

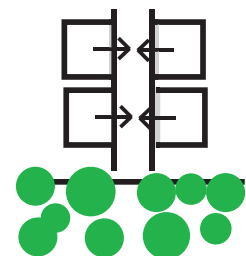
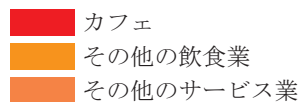


fig4. 5. 22
公園へと繋がる道に商業が集まる



fig4. 5. 23
江戸期と視覚領域
s = 1 : 15000



fig4. 5. 24
現在と視覚領域
s = 1 : 15000



fig4. 5. 25
公園に向かう道路からの緑の見え



fig4. 5. 26
公園に面した道路

○場所 5 : c. 長い線分の反復

分析 A

地形変化による街路パターンの切り替わり

江戸期の武家屋敷が宅地化されるに当たって土地を分割するためにできたみちである。江戸期に地形に沿って出来た道が曲がっているため、視覚領域に長短ができています。

分析 B

公園：高低さ、植え込み

周辺：マンション

公園と道路とは高低さによって分けられている。公園と周辺都市との繋がりには特にない。